

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0890200108		
法人名	社会福祉法人 克信会		
事業所名	グループホーム ベんてん		
所在地	茨城県 日立市東金沢町2丁目14番地19号		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	平成26年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0890200108-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0890200108-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2		
訪問調査日	平成25年12月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

季節ごとのイベント(花見・花火・紅葉)など、四季を感じることの出来る、行事を計画しています。自宅と変わらないままの生活を、送ってもらえるようにサポートしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設2年目のホームであるが、職員は常に認知症について学び合い認知症ケアの高い専門性を有しており、地域の方々から認知症ケアの相談にくることもある。少し狭いと感じられる居間は利用者・職員のそれぞれの動きが身近に感じられ意思の疎通がスムーズに出来るという利点があり、家庭的な雰囲気づくりに活かされている。センター方式を活用しながら一人ひとりの生活習慣等を詳細に把握し、声かけや対応の方法を微妙に変えながら接することで一人ひとりがたいへん落ち着いた楽しみのある生活をしている。  
また職員たちは常にホームの外での楽しみを考えており、日々の買い物やデイサービスにでかけたり、広いところで思いっきり体操をしたり、毎月のように花見・地元の夏祭り・紅葉狩り等季節毎の外出を楽しんでいる。利用者の希望する歌舞伎見物、温泉、県外の水族館等の遠出も様々な工夫をして実現させている。食事作りは一般の家庭のようにスーパージョランを見ながら利用者と一緒に買い物に出かけ、利用者と一緒に調理・配膳・後片付け等それぞれの出来る事を分担して楽しみながら行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者独自の理念があり事務所内や名札裏に、常に掲示してある。その理念を日常生活やケアプランに取り入れ実践している	全職員で地域密着型サービスの意義や事業所の役割について話し合いをし、ホームの理念を確認して共有と理解を深めた。日々のケアに対するそれぞれの気持ちを全員で話し合い「職員の心得」としてまとめ、ネームプレート裏に記し常に理念を意識しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	買い物などスタッフと一緒に近所のスーパーや小売店などを利用している。地域の行事(お祭り)などに参加している。	利用者が地域と繋がりながら生活していくことを目指し、地域のスーパーや専門店で食材の買い物に出かけたり、近くの交流センターにある図書館を利用する等して顔見知りの関係を作りながら日常的に交流している。また地域の祭りに参加したり、ホームの餅つきを地域住民と一緒に楽しんだりイベントを通しての交流も活発に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症の理解や支援方法を民生委員の方と話したり理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、利用者やサービスの状況や取り組み等を報告している。会議中の意見などを取り入れている。	家族や地域住民、市の担当者等の出席を得て2ヶ月に1回開催しており、会議ではホームの利用状況や活動状況の報告をしながら意見や提案、情報等を頂いている。頂いた情報などは外出の計画時に参考にする等、日頃のケアサービス向上に活かしている。議事録は出入口に置いて家族や職員が何時でも見られるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でホームの現状やケアサービスの取り組みや意見を伝え協力を築いている。	市の介護相談員が毎月ホームを訪れ利用者と親しく会話を交わしており、利用者の日頃の過ごし方やホームの取り組み等を知ってもらい、課題があればその都度話し合いをしている。運営推進会議等を活用し、ホームの利用状況等の実情を伝え協力関係の構築に積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフ日常的に身体拘束をしないかいごをしている。また、夜間の玄関のかぎ閉めを除きしていない。	毎年県老社協主催の研修会等に参加して拘束による弊害等も含め身体拘束についての正しい知識を学んでおり、その後の伝達研修で全職員が共有している。日中は玄関の施錠をせず何時でも出入りが自由に出来るようにする等、常に拘束の無いケアを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加し、研修内容を職員会議で説明をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についてと研修などに参加し必要になったときに活用できるように取り組みをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族と契約する前に、何度も説明し、契約をしている。不安な点や疑問点を十分に説明し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や、面会時、意見や要望を聞き、担当職員を付け家族と話しやすい環境を作っている。	週1回は全家族がそれぞれにホームを訪れており、その際には担当の職員が利用者の日々の様子等を伝えながら忌憚りの無い意見や要望を聞いている。また写真満載のホームだよりで利用者の日頃の様子や外出等の取り組み状況等を伝えたり、運営推進会議の議事録等を載せて話し合いをしやすくする取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1度職員の意見や提案などを聞く機会を設けており、職員会議などでも以遠できる環境を作っている。	毎月の職員会議や年2回の管理者と職員が個別に話し合う機会を設け、率直な意見・要望を聞いている。また管理者が日常業務と一緒にすることで話しやすい関係ができており、職員の気づきやアイデアが多数提案され運営に反映されている。特にホームの外出等のイベントは職員が自主的に計画し実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフがやりがいを持って働けるように、職場環境条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人の力量を把握し、本人の望む研修に参加できるような機会を確保している。又、その結果を報告して情報収集している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会などに参加して交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉ひとつひとつを受け止め可能な限り要望を取り入れ安心と信頼につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	加速の抱える不安や疑問を重く受け止め、納得し安心して頂けるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後も、入所前と変わらず過ごして頂けるように、本人、家族との会話を大切にしながら安心して過ごしていただけるように体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のやりたい事や出来ることを共に行い、出来ない事、不得意な事に手を差し伸べ共有し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時本人の現在の状況を細かく伝え、そのうえで本人、家族の要望を取り入れた支援に取り組むまた、家族にも本人の支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人が、いつでも気兼ねなく訪問して頂けるような環境を整えている。	敬老会は利用者それぞれの自宅があった地域で馴染みの方々と一緒に祝えるよう、職員や家族が付き添って出席している。また家族の協力を得ながら身内の命日には墓前に線香を手向ける事もある。日常的にはかつての会社の同僚や教え子、友人、知人等が気兼ねなくホームを訪れており、遠方の方とは家族の了解を得ながら手紙のやり取りなども支援し、馴染みの人との交流が絶えないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく生活できるように、間に立ちよりよい生活が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、移転先などに面会にいける様に出来る限り努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向を把握し、思いを取り組むようにしている。 意思疎通が取れない方は、生活の中の行動や様子、表情から把握している。	自宅での生活習慣等を把握したり、センター方式を用いたり、日々の暮らしの様子や気づきを申し送りノートに記録したりして希望や思いを丁寧に把握している。把握が困難な場合には記録を基にカンファレンスを実施し、本人の思いに出来るだけそえるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を元に本人の過去のお話を聞く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルを測定を元に顔色表情足取り、気分の声かけ、訴えに応じて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、家族の要望を元に意見や指示など職員会議等で話し合い介護計画に反映している。	担当職員を中心として丁寧なアセスメントを行って本人・家族と話し合い、他の職員の気づき等も取り入れ、これまでの生活習慣を大切にしながら、実現したい目標を明確にした日々の暮らしとつながりのある介護計画を作成している。毎月全職員でカンファレンス・モニタリングを行い一人ひとりの計画について検討し、定期的な見直しを実施している。また利用者の現状に応じた随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌やケース記録を通して利用者の状態や会話、家族との会話など職員全体にわかりやすいように記入し、改善点などを介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人の状態や家族の意向に、柔軟な支援、対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の体調や能力に合わせ無理なく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重しながら、かかりつけ医に相談し、そのときどきに応じて適切な医療を受けている。	利用者・家族の希望に応じてかかりつけ医や専門医への受診を行っている。協力医療機関の医師が月1回往診に訪れ常に利用者の健康状態を把握しており、変化に応じた適切な医療を受けられるようになっている。また急変時には隣接する特養の看護師が対応し、各医療機関につなげるようになっている。それぞれの受診結果は「お薬手帳」に記録して利用者・家族・各医療機関・職員が情報を共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時、異変の際は、特養の看護師に連絡する体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時、通院中医療機関に連絡し現在の状態や、様子などの情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期まで対応していない為、入所申し込みの際は、特別養護老人ホームのお願いをしている	重度化した利用者のケアは行っているが、ホームの方針として看取りは行わない事としている。特別養護老人ホームや医療機関の利用については医師の判断に基づいて本人・家族・職員で十分に話し合い本人にとって最善の方法を選択している。職員は重度化した利用者へのケアについて医師や看護師から常に指導を受けながら勉強を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの研修会などに参加している。職員会議などでヒヤリハットした事例などを報告して対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練などの際に、同じテナントや法人施設に協力体制を築いている。	消防署と協力しながら年2回の避難訓練を実施している。ホームの構造上避難経路が1箇所の為、2階・3階に避難用具を備え、職員が実際に使用する等の丁寧な訓練を実施している。火災通報装置・消火器も実際に動かして訓練している。スプリンクラー・階段の非常用照明等も完備している。	消防署との避難訓練に際しては、はしご車を着ける位置や出火場所を想定しての利用者の誘導方法等について、具体的な話し合いや指導を受けることを期待したい。また各職員がどのような事に不安を抱いているか等についても話し合い、解決しておくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その状況にあった対応をし、その人のプライドを傷つけず様、表情をよく確認しながら声かけをしている。	利用者の昔話を根気良く聞いたり、幻視のある利用者の言葉にも話を合わせて付き合う等、一人ひとりの世界を大切にした対応をしていた。また外出等で選ぶ機会を設けたり、料理やミシン掛け等得意な事を続けられるような支援をしている。入浴時は同姓介助を基本としているが都合の付かない場合にはドアの外から見守るようにする等の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声かけを行い利用者の態度や表情を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを活かして休んでいたいときや、食事の時間など関係なく休んで頂いている。個人のペースに合わせたライフスタイルを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のこだわりなどを把握し、職員と一緒に着たいものを選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りのたびに食べたい物を聞いたり一緒に食事の準備を手伝って頂いたりする。片付けや洗い物、食器拭きなど出来る範囲でお願いしている。	利用者と一緒に相談しながら献立を考え、近くのスーパーで買い物をし、利用者・職員と一緒に下ごしらえや調理をして、常に季節感のある食事を楽しんでいる。ご飯茶碗・お碗・湯のみ・箸などそれぞれが自分専用になっており、料理に合わせた食器は陶器・ガラス器等を用いて食事をより一層おいしそうに、また楽しめるようにしている。職員と一緒に囲んだ食卓では外の景色を見ながらの会話も楽しそうであった。食事介助もゆっくと利用者のペースに合わせて行われていた。楽しみ事として誕生会の菓子作り、餅つき、外食等も取り入れ、また日常的にもおやつ作り等をしながら常に食べる事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェックリストなどを使用し全体の量などを確認している。他職員から引継ぎし嚥下状態などに合わせた調理工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の取り外しの声かけをする。自分で管理が出来ない人に関してはサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンを把握して、失敗を減らすようにトイレの声かけを重視している。	自宅でオムツ対応であった利用者も、一人ひとりの排泄パターンを丁寧に把握し、声かけのタイミングや方法を工夫することで、要介護4や5の利用者も全員布パンツ（中にはパットを用いることもあるが）でトイレでの排泄を行っている。夜のみのハビリパンツを利用することもある。下剤を服用する場合でも日中に排便できるよう服用時間の調整なども行い、失敗のないよう注意深く見守りをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物や、乳製品などを提供し、散歩や運動などを進めている。下剤を使用する場合には、排便が夜中にならないように配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、自由な時間に入浴をしてもらおうが、医療的理由や、勤務体制によっては毎日、希望をかなえられてはいない。	毎日の入浴を可能にしており、それぞれの好みの時間に入浴できるようになっている。就寝前や一番風呂を希望する利用者、一日置きに入浴する人など様々であるが、職員のシフト調整などをして対応している。入浴に際しては好みの石鹸・シャンプー等を個人で用意しており、香りや使い心地をそれぞれが楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の生活習慣や、その日の状況に応じて休んでもらったり、安心して気持ちよく眠れるように不安等のケアに努め支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診などで、新たに処方された薬も含め、副作用、用法、容量を確認できるようにしている。その際の体調の変化を記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る家事等をお願いしたり、誕生日などは、本人と買い物に行ったり、希望の食事を提供したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、散歩を行っている。月に1度は、園外活動をしたり、ご家族様と外に出かけたりをお願いしている。	庭先の花を見ながらの日光浴や交流センターの図書館への外出、食材の買い物を兼ねたスーパー等へのお出かけは日常的に行っており、同法人の『デイサービス』には知人との面会や軽い体操等を兼ねて訪問することもある。イベントとしての外出は利用者の希望を聞きながら毎月計画し、温泉入浴・リンゴ狩り・花火観賞・歌舞伎観賞等かなり遠方までかけている。特に男性利用者・女性利用者が別々に出かける等のユニークな計画も楽しそうだった。家族の協力も多く、外食や墓参りなど個別に出かける機会も頻繁にある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり、事務所管理してあるが、買い物等で必要な際は、会計時見守りにて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事にあわせた飾り付けや、適度な温度調整、太陽の光、空気の換気、証明の調節など対処している。	2階・3階の各ユニットは既存の建物を活用しているため居間はコンパクトであるが、職員との会話にはほど良い距離感が保てており、自宅に居るような落ち着いた雰囲気がある。全体が明るく見晴らしも良いことから話題も豊富に生まれていた。季節の花を生けたり、時の見当識を意識した見やすいカレンダー・時計等への配慮も行き届いている。トイレは各ユニットに3箇所ありそれぞれ機能にあわせて使いやすいようになっており、浴室と共に清潔に整えられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで気のあった利用者同士で、思い思い過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅などで、使っていた家具や布団を持ち込んで居心地よく過ごせるようにしている。	居室の広さや柱の位置等が少しずつ違っているが、部屋の造りを上手に使って住みやすいように工夫されている。各居室は趣味のミシン・編み物などの品々を持ち込んでいたり、花や家族の写真、趣味の製作物、仏壇を置いていたり、家族用の椅子を置いたり、利用者のこれまでの生活を彷彿とさせるような個性的なつくりになっている。日頃から家族・職員が関わり、一人になる時間も豊かなものになりたいとの思いが感じられる個性的な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、居室のドアにも利用者様の写真を掲示するなど、分かりやすいようにしている。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練などは、消防署と連携しているが、特定の出火場所での訓練のみだった。消防士の侵入経路や、はしご車の停車する所の相談をしていなかった。	不特定の出火場所を想定し、訓練を行い、消防署との避難誘導の指導を仰ぐ。	消防署と連携し、出火場所ごとの避難誘導等の指導や、はしご車などの停止位置、進入箇所について話し合い相談する。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。